

平塚の石仏めぐり

2. 南金目編



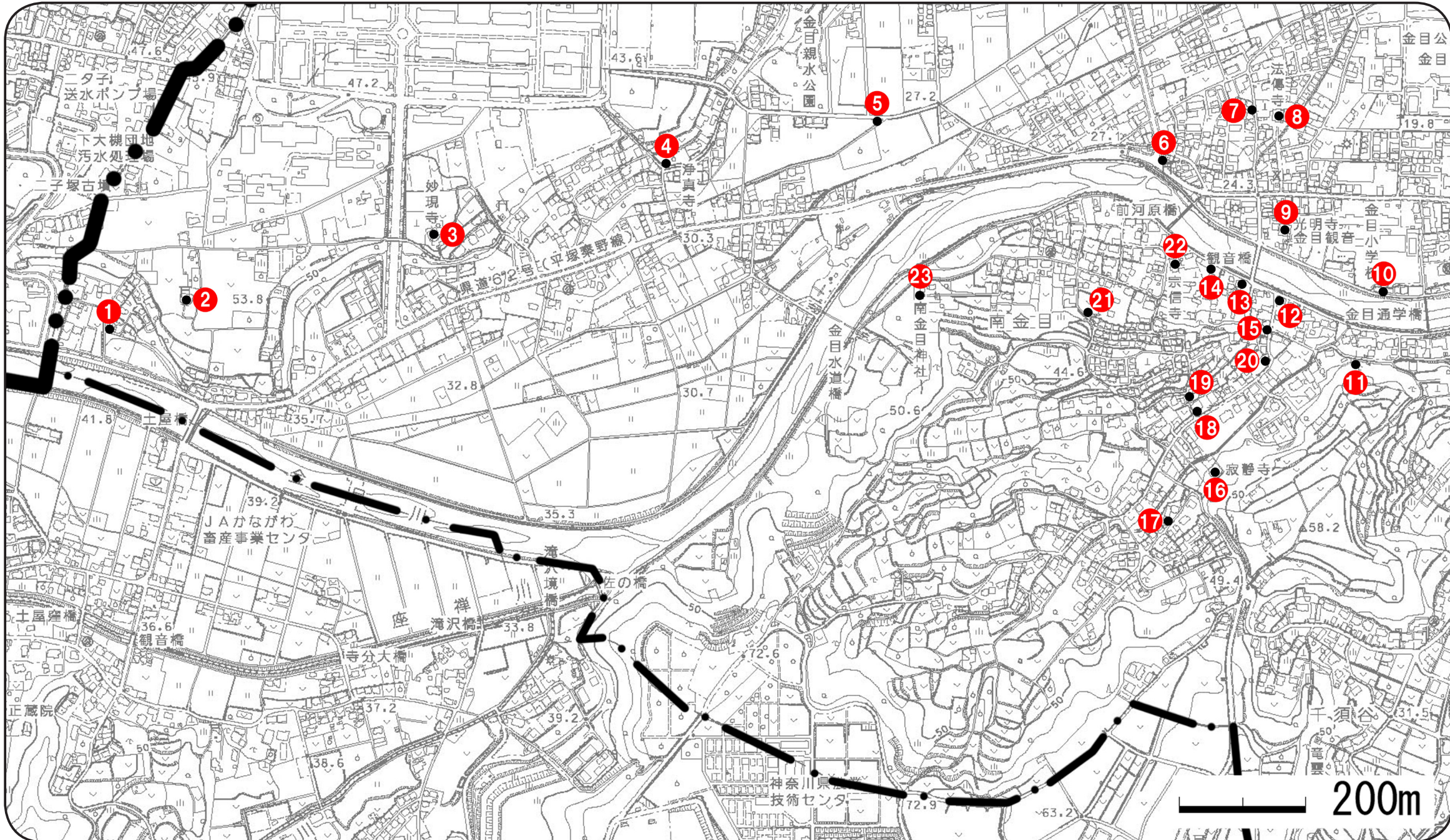
双体馬頭観音：青柳路傍

南金目の石仏

南金目は本市の西部に位置し、西端は秦野市に接しています。地域の西から東へ金目川が流れています。川の左岸は水田が広がり、右岸の丘陵・台地には畑が点在しています。金目川は地域の水田を潤す恵みの川である一方、豪雨時にはたびたび堤防を破壊し洪水を起こす暴れ川でした。

天保12年刊行『新編相模國風土記稿』による南金目村の戸数は94。現在の自治会は、青柳、坪之内、堀之内、根下、太田の5つに区分されています。根下と太田を合わせて川前といい、祭礼やイベントを合同で行っています。鎮守の南金目神社は明治9年に村内の小社を合祀し、旧称雷電社から現社名に変更されました。例祭は10月第二日曜日。青柳の春日神社と八幡神社は合祀後に元へ戻された神社。堀之内の御嶽神社は明治18年の勧請といわれます。寺院は天台宗の光明寺と寂静寺、日蓮宗の法伝寺と宗信寺と妙現寺、曹洞宗の安養寺などがあります。光明寺境内の金目観音堂は坂東観音霊場の第七番札所です。

南金目には金目地区全体の36%にあたる134基の石仏が存在しています。種別でみると道祖神が15基と多く、大字別で土屋、上吉沢に次ぐ造立数です。馬頭観音が12基あり、妙現寺に集められた8基をはじめ、青柳路傍に市内唯一の双体馬頭観音があります。地蔵は10基、観音と題目塔は8基です。石材は丹沢産の凝灰岩が多く用いられています。



南金目の石仏所在地と主な石仏

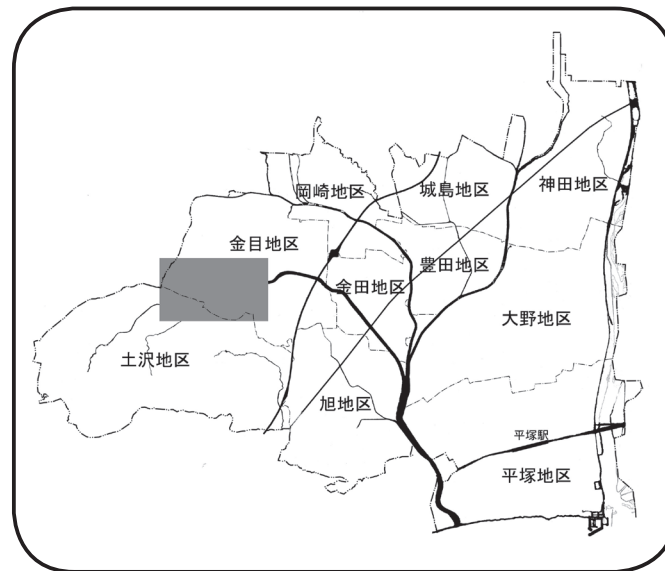
番号	名 称	住 所	主 な 石 仏
1	青柳路傍	南金目 9	道祖神
2	春日社	南金目 27	三猿庚申塔、他
3	妙現寺	南金目 170	馬頭観音、題目塔、他
4	青柳路傍	南金目 276	道祖神
5	青柳路傍	南金目 777	双体馬頭観音
6	堀之内路傍	南金目 875	道祖神、道標
7	堀之内路傍	南金目 832	双体道祖神
8	法伝寺	南金目 867	題目塔、日蓮菩薩塔、他
9	光明寺	南金目 896	観音巡拝塔、聖徳太子、庚申塔、徳本名号塔、他
10	太田路傍	南金目 1096	道祖神
11	太田路傍	南金目 1621	双体道祖神
12	太田路傍	南金目 1747	双体道祖神、地蔵
13	太田路傍	南金目 1751	稻荷石祠
14	安養寺	南金目 1753	六地藏、天神
15	太田路傍	南金目 1756	双体道祖神、観音、地蔵

番号	名 称	住 所	主 な 石 仏
16	寂静寺	南金目 1787	巡拝塔、地蔵、一石六地藏、廻国塔、宝篋印塔、読誦塔、他
17	根下路傍	南金目 1839	双体道祖神
18	根下路傍	南金目 2258	動物供養塔、馬頭観音
19	根下路傍	南金目 2258	双体道祖神
20	根下路傍	南金目 2263	道祖神
21	坪之内路傍	南金目 2313	双体道祖神
22	宗信寺	南金目 2336	題目塔、日蓮菩薩塔、他
23	南金目神社	南金目 2416	鳥居、狛犬、他

石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。

また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。



平塚の石仏めぐり (2. 南金目編)
発行日：平成30年10月
編 集：石仏を調べる会
発 行：平塚市博物館
住 所：神奈川県平塚市浅間町12-41
電 話：0463-33-5111

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は平成26年集計時点のものです。

春日社の庚申塔 (地図番号②)

青柳の西の畑の中に小さな社と一基の笠付型庚申塔があります。

庚申塔は寛文 12 年 (1672) に建てられ、高さ 140cm、凝灰岩で出来ています。

正面には「南無妙法蓮華經奉勸請山王大権現」と庚申塔としては珍しい日蓮宗のお題目が、各面には偈頌や庚申への願文等、たくさんの文字が彫られており、古いタイプの庚申塔です。また、下部には三猿も彫られています。



庚申塔 (寛文 12 年)

妙現寺の馬頭観音群 (地図番号③)

妙現寺は日蓮宗のお寺で、慶長 6 年 (1601) 下吉沢に創建され、昭和 7 年 (1932) 現在の青柳の地に遷されました。

入り口には題目塔と仁王像があり、階段を登った境内左手に、明治 39 年 (1906) から昭和 23 年 (1948) に亘って造られた駒型 3 基、櫛型 3 基、自然石 1 基の文字馬頭観音があり、そのうちの 1 基には馬の顔が彫られています。

ご住職の話によれば、寺院前の傾斜面には亡くなった馬を供養するたくさんの馬頭観音があったが、道路を作る際に撤去を余儀なくされ、子孫の方々と協力して平成 12 年に造立した新しい馬頭観音を中心に現在の場所に整備したとのこと。

寺院下の青柳集落には昭和の初めまで馬の継立場がありました。馬は農耕や運搬に用いられ、また大切な交通手段でもありました。



平成 12 年に建てられた三面馬頭観音と、文字馬頭観音群

青柳路傍の道祖神 (地図番号④)

ここは青柳の集落の入口で、2 基の道祖神と五輪塔があります。そのうち 1 基は明治 41 年 (1908) に建てられ、兜巾型で「塞座三柱大神」と刻まれています。奈良・平安時代に京都の道饗祭で祀られた八街比古、八街比売、久那斗の三神のことで、悪霊の侵入を塞ぐ神様とされています。この神名が刻まれている道祖神は市内でここだけです。



道祖神 (左 明治 42 年、右 明治 41 年)

青柳路傍の双体馬頭観音 (地図番号⑤)

青柳の水田の片隅に祀られている櫛型の塔は、双体像の馬頭観音です。

塔の右面に「明次 三午九月十一日」、左面に「明次 四未六月五日」(1871) と馬が亡くなったと思われる期日が彫られています。石仏自体は小型ですが、馬に注がれた深い愛情を感じます。双体像の馬頭観音は、市内ではこの一基のみです。付近の方が毎日のようにお参りし草取りや水・花等を供えています。



双体馬頭観音 (明治 4 年)

堀之内路傍の道祖神 (地図番号⑦)

堀之内・法伝寺付近の道祖神は、造立年は不明ですが、非常にふくよかな微笑みのある双体像です。彫りがはっきりして美しい像です。向かって左の像は髻を結ぶ女神、右の像は冠を被る男神です。ともに袖中合掌し、狩衣の下に袴をはき、素足の姿です。

道祖神の祭場には、五輪塔片も祀られています。



双体道祖神 (年代不詳)

法伝寺の題目塔 (地図番号⑧)

法伝寺は日蓮宗のお寺です。本堂前にある 3m 弱の塔は、明治 11 年 (1878)、日蓮上人の六百年遠忌に造立されました。塔正面に「南無妙法蓮華經」のお題目と「日蓮大菩薩」が併記されています。

書体は日蓮上人独特の「髭題目」と呼ばれ、筆の先まで躍動感と力強さがあらわれています。台石には題目塔造立に関係した多くの人の名前が彫られています。



題目塔 (明治 11 年)

太田路傍の道祖神 (地図番号⑪)

太田と根下を合せて川前といいます。川前では 6 ヶ所 6 基の道祖神が祀られています。双体像が 4 基、文字碑が 2 基です。どんど焼きは金目川の河原で 2 ヶ所に分かれて行なわれています。

写真の道祖神は、太田の集落から田子嶺の畑に通じる小道の分岐点に祀られています。袖中合掌の神像で、素朴なたたずまいを見せています。



双体道祖神 (年代不詳)

光明寺の石仏 (地図番号⑨)

大宝 2 年 (702) 草創の光明寺は、坂東三十三箇所観音霊場の第七番札所で、金目観音として有名です。

聖観音・巡拝塔 仁王門右側の塔正面に、光明寺の本尊・聖観音菩薩を表す梵字「似」と「聖観世音」と大きく刻まれています。他の面に「坂東七番金目山」、「寛政二」(1790)、「奉納百番巡禮成就」、「鋪石供養塔」等。江戸後期、北金目と落幡の 3 名が、西国、坂東、秩父の百観音霊場巡礼を見事に達成した記念に、この塔を奉納したと読み取れます。

聖徳太子像 境内右側の塀前で柄香炉を持つ像は、宝暦 13 年 (1763) に造立された市内唯一の聖徳太子です。この姿は太子が 16 歳の時、父の病氣回復を祈る孝養像と呼ばれます。太子は法隆寺を創建し曲尺を発明したといわれ、大工等の職人達は太子講を作って太子を祀ってきました。以前、光明寺にも太子講があり、現在も本堂に木造孝養像があります。



観音・巡拝塔 (寛政 2 年)



聖徳太子像 (宝暦 13 年)

庚申塔、聖観音、地藏 境内右奥の塀の前に数体の石仏が並んでいます。直立して並んでいるように見える三猿が彫られた板碑型の石塔は、寛文 2 年 (1662) 造立の庚申塔で、市内では四番目に古いものです。

その他、元禄 8 年 (1695) と安永 9 年 (1780) 造立の聖観音像等があり、また、屋根掛けされた祠内にある等身大の地藏は、造立年不明ですが弘法大師作といわれ、子育て地藏として信仰されています。

徳本名号塔 境内左側の植え込みにある「南無阿弥陀仏」と彫られた塔は、阿弥陀仏を信じ念仏を唱えると極楽往生できるとの徳本念仏信者により、文政 3 年 (1820) に造立。文化年間、徳本上人の熱烈な布教により、旧中郡のほぼ全域に 4 組の大会念仏という組織ができ、西組の念仏は、光明寺で始まり秦野等を回りました。後ろの塔は、大正 3 年徳本上人の百回忌に建てられ、「徳本大會念佛西組元祖」とあります。



板碑型三猿庚申塔 (寛文 2 年)



徳本名号塔 (文政 3 年) と供養塔 (大正 3 年)

寂静寺の石仏 (地図番号⑫)

寂静寺は金竜山大光院と号する天台宗の寺院です。寺の前を通り上吉沢へ抜ける道は、金目観音と飯泉観音とを結ぶ巡礼道でした。また、国府祭に向かう三ノ宮比々多神社の神輿もこの付近を通っていました。

廻国塔 寂静寺の隠居である貞順が、諸国を巡礼したことを刻んだ塔です。宝篋印塔の形をした廻国塔は市内ではこれだけです。正面にある「扶桑」は、中国の東方にあるという伝説の国で、日本の異称として使われています。左の面には「土中法華一部石經□置」とあり、法華経を一つの石に一字ずつ写して、土中に埋めて供養したことが分かります。享保 3 年 (1718) 造立です。



廻国塔 (享保 3 年)

寂静寺の石仏群 主な石仏を左から見ていきます。一番左の石塔は享保 2 年 (1717) 造立の廻国塔です。右面と左面の偈頌は「法華経観世音菩薩普門品」と「法華経化城喻品」です。次にあるのは舟型の地藏です。平成 16 年、台風による倒木で上部が欠けてしまいましたが、きれいに修復されました。一つおいて右にある背の高い宝塔は寛延元年 (1748) 造立の經典供養塔です。左面に「初懷妊」「安樂産福子」などの文字があり、安産祈願として法華経を千回読誦の供養をしたことを表していると思われます。その右にあるのは六角柱の各面に地藏尊を刻んだ一石六地藏で、造立は明治 17 年 (1884) です。



寂静寺の石仏群 左から、廻国塔 (享保 2 年)、地藏 (年代不詳)、經典供養塔 (寛延元年)、六地藏石幢 (明治 17 年)

坪之内路傍の道祖神 (地図番号⑯)

坪之内の全体で祀る道祖神です。明治 5 年 (1872) に造立された舟型の双体道祖神です。

向かって左側の像は髻を結ぶ女神、右側は烏帽子を被る男神です。ともに袖中合掌しています。

この道祖神は坪之内集落のはずれで、大山の眺めの良い場所に祀られています。集落へ疫病神などの災いが侵入するのを防いでくれる神になっています。



双体道祖神 (明治 5 年)